

当社の記事が『週刊ダイヤモンド(2014.11.22号)』に掲載されました。



株

買ってはいけない 株 163
買っていい 株 237

急変相場を見極める!

プロがずばり予測!
消費増税、米金利上げ
相場リスク発生確率

割安か割高かチェック!
大型株500銘柄リスト

NISA乗り換え解禁
金融機関徹底比較

中長期で持てる株15
GPIFが買い増す株40
低コストの投資50

赤字続きの株19
下方修正続きの株29
欧州天変で下アレ株40

～ 本文抜粋 ～

さらに、トヨタは、ベンチャー企業のジャパンプルーエナジーが保有するバイオマス(下水汚泥もその一種)のガス化技術にも着目している。水素を生成するだけでなく水素発電まで行うプロジェクトには、米ゼネラル・エレクトリックも興味を示している。



News

**トヨタ、GEも食指を動かす
水素インフラ整備の「秘策」**

世界初となるトヨタ自動車の市販燃料電池車(FCEV)の価格発表が11月18日に迫った。かねてFCEV普及のネックとされてきたのが、FCEVに水素を供給する水素ステーション整備の遅れだ。高額の建設・運営コスト、都市部における適地の不足が遅延の理由だが、それらを解決するかもしれない秘策が浮上しているという。 本誌・浅島亮子

東 京 都 豊 田 区 に あり ます トヨタ自動車株式会社の豊田製作所。ここには、トヨタの水素インフラ整備の「秘策」が隠れている。それは、水素ステーション整備の遅れを解消するための「秘策」だ。それは、水素ステーション整備の遅れを解消するための「秘策」だ。それは、水素ステーション整備の遅れを解消するための「秘策」だ。

事業性の確保が鍵
福岡市の実証実験

実際、東京都に先行する形で今年4月、福岡市で下水汚泥を活用した実証実験が始まっている。下水汚泥のガス化技術は、これまで、福岡県、九州電力、三菱物産、トヨタグループの豊田製作所をメンバーに、国土交通省の先導事業として進められている。下水汚泥のガス化技術は、これまで、福岡県、九州電力、三菱物産、トヨタグループの豊田製作所をメンバーに、国土交通省の先導事業として進められている。

当社は“先進・独自の技術をもって新しい価値を創造し、豊かで快適な社会、環境の実現”に向けて積極的な活動を進めてまいります。

＜お問合せ先＞

◆ リリースに関するお問い合わせ先
株式会社ジャパンプルーエナジー 事業企画推進部
TEL:03-3234-1551 FAX:03-3239-3240 Email: soumu@jbec.jp